

2025/09/27

追分の学校を 考える会

第1回

Newsletters



【開催概要】

日時：R7年9月27日（土）

9:00～12:00

場所：追分公民館

参加者数：30名

9月27日（土）に第1回

「追分の学校を考える会」を開催！

9月27日（土）、追分公民館で「追分の学校を考える会」の第1回が開催されました。地域の住民、保護者、先生方、教育関係者など約30名が参加し、「子どもをまんなかに」未来の学校とまちの姿を語り合いました。和やかな雰囲気の中でスタートした今回の会は、まさに“考える会”のキックオフ。これから全6回を通じて、追分の学校づくりのコンセプトをみんなで育てていきます。

オープニング

今回の会は、追分の学校の「コンセプト」をつくることを目的にしています。コンセプトとは、建物の話だけでなく、「どんな教育をしたいか」「地域とどう関わる学校にしたいか」といった、学校のあり方を考える指針です。まずは安心して話し合える場をつくるため、アイスブレイクからスタート。その後、「教育とは何か」「学校の役割とは？」をテーマに意見を交わしながら、追分の未来を一緒に描いていきます。ハイタッチで笑顔を交わしながら、子どもをまんやかに考える時間にしていきましょう！



アイスブレイク これから半年間一緒に頑張る仲間、チームをつくろう！

話し合いで重要なのが、参加者の関係性です。発言するのに安全安心な場でなければ、いい意見もアイデアもでてこないものです。そこで、「はじめまして！」からの「チームビルディング」。協働的な学びが大切にされている学校教育現場でも、こうしたコミュニケーションマナーや遊びを通じたチームづくり活動が取り入れられはじめています。大人もまずは体験！ いまどきの学び方を学んでいきます。

1 いい音、いい声、いい笑顔！ ハイタッチ自己紹介

名前・地域・特技などを1分ずつ紹介し、最後はハイタッチ！「初対面なのに一気に距離が縮まった」「笑顔で始められてよかった」との声があがりました。



コミュニケーションマナーで、安全安心な対話の場

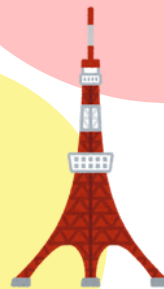
2 Yes, and

相手の意見をまず「いいね」と受け止め、「そして自分はこう思う」と重ねるスタイルを体験。逆の「NO! But (でも…)」を体験してみると、「話す気持ちがしぼんだ」という感想もあり、「安心して話せる場」の大切さを全員で共有しました。



3 チームづくりのコツを発見！ 新聞タワー

新聞紙だけでどこまで高く積めるか？ 5人1組の6班で挑戦！優勝チームは「柔軟な役割分担と過去の経験を生かした工夫」がポイントだったそう。芸術賞チームは「誰も否定しないYes, Andの実践」で、楽しい雰囲気から成果につながりました。遊びながら、チームづくりのコツを学びました。「素材（課題）を知る・アイデアを出す・役割分担・楽しむ」がコツでした！



学びと対話

学校について考えるための、
議論の土台の知識を学び対話しました

教育の目的 って何？

教育とは何かという定義は、研究者によって違いますが、公教育における**教育の目的は、教育基本法によって定められています。「人格の完成」という個人の幸福や成長といった側面と「平和で民主的な国家及び社会の形成者の育成」という社会の一員の育成という社会的な側面の両面があります。**



人格の形成に 学校教育って 何%影響してる？

人格の形成には、親つまり「家庭教育」の影響を強く受けています。教育は「学校教育」だけでなく「家庭教育」「社会教育」があり、教育すべてを学校教育に押し付けてはいけません。

人格形成 完成した？

人格の形成は、一生継続くもの。それが「生涯学習社会」です。学校教育からどのように生涯学習続けられるようにするかが、大切です。



経済格差と 学力の関係って？

経済格差は学力格差につながりやすい要素の一つです。どのような環境に生まれても、その子に応じたよりよい教育を受けられるようにするために、ここにいない子どもや家庭の「声なき声」にも耳を傾けていきましょう。



今の学校 スタイル はどこから？

日本で学校教育が始まったのは明治時代です。それまでは寺子屋などで教育は行われていましたが、将来の職業に必要な学びを個別に行われていました。その後、明治維新、敗戦という2つの大きな出来事によって日本の教育は大きく変わりましたが、**黒板を向いての一斉授業は、明治期からほとんど変わっていません。**一方、**内容に関しては、社会の変化、社会のニーズによって変遷してきました。**

特に最近では、ICTやAIなどの技術的発展によって、単なる知識の詰め込みではなく、対話や協働作業、ICTを活用した学びなどが取り入れられ、生徒児童それぞれにあった「個別最適な学び」の必要性が謳われるようになっていきます。教育は、いつの時代も社会を写す鏡のような存在なのです。



ワークショップ 「わたしたちは、どんな未来がほしいのか？ どんなまちにしたいのか？」

【対話のステップ】

追分の
ここは
残したい

こんな
未来は
いない

こんな未来
こんなまち
にしたい

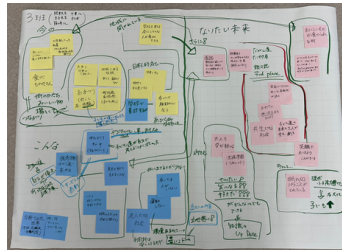
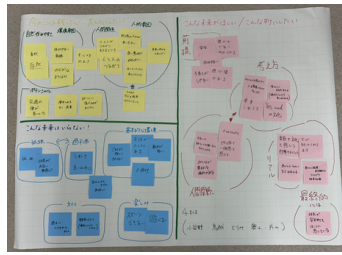
今回のワークショップでは、3色の付箋を使ってそれぞれの想いを書き出しました。黄色の付箋には「追分のここは残したい」、青には「こんな未来はらない」、ピンクには「こんな未来・こんなまちにしたい」という願いを。一人ひとりの意見を出し合いながら、班ごとに模造紙の上で整理していくと、共通するキーワードが次々と浮かび、追分の良さとして多く挙がったのは、「豊かな自然」「人とのつながり」「お互いに気にかけて合うあたたかさ」。一方で、「繋がりが薄れてしまう」「数字だけで人を評価する社会」「地域らしさを失う未来」は“いらぬ未来”として意見が集まりました。そして「助けてと言えるまち」「子どもの笑顔が指標になるまち」「多様な教育ができるまち」など、“誰もが受け入れられ、安心できるまち”という理想の姿が、多くの班で共通して描かれました。



全体共有 各班で話し合われた内容や思いを共有しました

班ごとの発表では、それぞれの視点から追分の未来が語られました。

6班では、「人とのつながり」や「助けてと言え
る安心なまち」をキーワードに、普段から声を
掛け合える関係づくりの大切さが話題に。「どこ
へ行けば助けてもらえるか、情報が届くまちにし
たい」という具体的な提案も出ました。一方、
5班では「多様な教育」「居心地のよさ」「表現の
自由」を大切にしようという意見が多く、「子ど
もが自分のやりたいことを伸ばせるまちに」とい
う想いが共有されました。どの班からも、「つな
がり・安心・笑顔」という言葉が何度も聞かれ、
「追分らしさを未来につなぐ」方向性が自然と浮
かび上がる発表となりました。



ふりかえり 最後に円になって1人15秒で今日の感想を共有しました

久しぶりに考えることがワクワクする
ということを実感した

70年この故郷に住んでいるが、
若い人の参加が多くて嬉しい

いろんな立場の人が関わり、いい学校を作る
うという同じビジョンを見ていることを実感
し、すごくワクワクする良い時間だった

移住して3ヶ月だが、参加している大人
たちが前向きで良い方ばかりで、
ここで子育てするのが楽しみになった

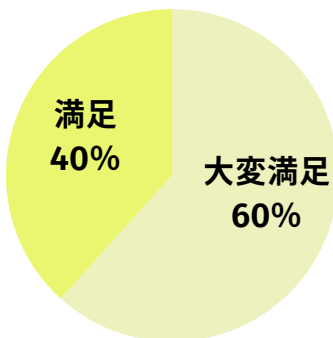
(新聞タワーが)
高く積み上げられてよかった

追分という名前が付いている会だが、全地区
から様々な人が来ており、安平町が一体となっ
て進んでいることを実感している



参加者の声 追分の学校づくりで大切にしたいことは何だと思いましたか？

第1回目の満足度



- ・地域な大切さをアピールすることと学校との距離感を縮めること
- ・日頃から気にかけて合う。人と人のつながり。
- ・追分地区で大切にされてきたことをこれからもっと知っていき、そこに新しい人の解釈も加えてコンセプトを見つけていきたいと思いました。
- ・前例や"フツー"や当たり前にとらわれない合理性
- ・これからの社会で生きていく子どもの幸せ。(社会と個人のバランス)
- ・地域に開かれ、子どもたちが安心して楽しく学べる場であること
- ・地域と教育現場の結束力！そして、モチベーション！
- ・お互いにイメージを共有し合いながらやれたらいいなど。そして、全く新しいことをやるというより、今までの追分の人たちが大切にしていたことや人のつながりを大切にしながらより良くする方向に動いたらいいと思います。

(事後アンケートからの抜粋)

お問い合わせ



安平町教育委員会学校教育グループ
TEL : 0145-29-7036
e-mail : gk-kyouiku@town.abira.lg.jp

